

“はっけよい”ゆるキャラ相撲大会 県内ゆるキャラが大集合



つがーちゃん(三内丸山遺跡)は1回戦でさんまる(三内丸山遺跡)と対戦



優勝を果たし表彰される雲丹



好きなゆるキャラと記念撮影

県内各地の人気ゆるキャラが相撲を取る「第1回青森県全国ゆるキャラすもう大会」が9月15日、イオンモールつがる柏駐車場で行われました。これは、県内の特産品や文化を全国に広めていこうと同実行委員会(荒谷政志代表)が主催したものです。この日はあいにくの雨模様でしたが多くの市民らが会場に詰め掛け、開会式で福島市長が「郷土の願いが込められたゆるキャラを多くの方に知ってもらい、地域の魅力の再発見につながることを願います」とあいさつ。青森県産品キャラクター・決め手くんが行司を務め、15体のゆるキャラが次々と「ゆるーい」対戦を繰り広げました。かわいいゆるキャラがゆっくりした動きで押し合ったり転がったりする姿に観客は笑顔で声援を送り、会場は大いに盛り上がりました。決勝では雲丹(佐井村)がラッセル君(弘南鉄道)を破り、初代横綱に輝きました。



出場ゆるキャラが土俵上で紹介される

世界遺産登録に向けて機運高める 亀ヶ岡遺跡まつり2013

「JOMON亀ヶ岡遺跡まつり」が8月17日、しゃこちゃん広場を主会場に開催されました。これは北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群の世界文化遺産登録への機運を高めようとNPO法人つがる縄文の会(野呂隆昌理事長)が主催。昼の部に行われた田小屋野貝塚ウォークには市内外から参加した約90人が同貝塚と亀ヶ岡遺跡を見て回りました。7月下旬から発掘調査を行っている亀ヶ岡遺跡では市教育委員会の佐野忠史学芸員が「縄文時代晩期の土坑墓と思われる遺構や、縄文時代晩期から弥生時代前期の土器や緑色の石の玉などが見つかり、保存状態もいい」と解説しました。その後、参加者は縄文館で縄文人がアクセサリーとして使っていたベンケイガイ製の貝輪(プレスレット)作りを体験しました。

夜の部では縄文荒吐会による創作太鼓の披露や、亀ヶ岡遺跡周辺をネブタが運行し、世界遺産登録を目指して機運を盛り上げました。



縄文創作太鼓3部作を披露する縄文荒吐会



亀ヶ岡遺跡の発掘現場を見学



遺跡周辺をネブタが運行